

映画機能付交流スペース利活用検討会 報告書

歴史・文化資源のクリエイティブな継承と
多様な交流・コミュニティの創出に向けて

令和3年2月

鶴岡市社会福祉協議会
山王まちづくり株式会社
鶴岡市

目次

- 1 鶴岡まちなかキネマの経過と映画機能付交流スペース利活用検討会について・・・P 1
 - (1) 鶴岡まちなかキネマの経過
 - (2) 映画機能付交流スペース利活用検討会

- 2 映画機能付交流スペース利活用検討会を踏まえた今後の取組み・・・・・・・・・・P 5
 - (1) 鶴岡市社会福祉協議会の役割－鶴岡まちなかキネマ再整備方針
 - (2) 山王まちづくり(株)の役割－映画機能付交流スペース運営方針
 - (3) 鶴岡市の役割－市等関係機関の連携方針

- 3 映画機能付交流スペース利活用検討会 参考資料・・・・・・・・・・P 6
 - (1) 意見概要
 - (2) 映画機能付交流スペース利活用検討会会議資料（第1回～第3回）

1 鶴岡まちなかキネマの経過と映画機能付交流スペース利活用検討会について

(1) 鶴岡まちなかキネマの経過

【市内唯一の映画館】

鶴岡まちなかキネマ（まちキネ）は、中心市街地にある昭和初期に建てられた松文産業鶴岡工場を映画館としてリノベーションした建物で、本市の近代化を支えたシルク産業に関わる歴史的建造物であり、日本遺産「サムライゆかりのシルク」、松ヶ岡開墾 150 年、そして、酒井家庄内入部 400 年とも密接に関連する産業文化遺産である。

平成 22 年 5 月、「鶴岡まちなかキネマ」として開館し、地元企業や金融機関の支援を受け、民間企業の(株)まちづくり鶴岡がその運営を担ってきた。本市唯一の映画館として、メジャー作品等の映画上映に加え、「つるおか食文化映画祭」、子供会や敬老会事業での映画上映など地域に密着した企画運営を行ってきた。また、落語、朗読会、ミニコンサート、展示販売、講演会、婚活パーティー、セミナー、シンポジウムなど貸館も含む多様な事業も行い、山王商店街と連携した割引サービスやイベントへの参加など地域の巻き込みながら運営を続け、観客動員数は最大で 8 万人を数えていた。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言により、令和 2 年 4 月から臨時休館し、同年 5 月に経営改善が図られないことから、まちキネを閉館することとし、まちづくり鶴岡(株)は私的整理手続きを始めることとなった。

【閉館した映画館の再生に向けて】

閉館したまちキネについて、(株)まちづくり鶴岡と債権者団体代表の荘内銀行は、かねてから事務所の一部機能の移転を検討していた鶴岡市社会福祉協議会に譲渡を打診する。鶴岡市社会福祉協議会では、隣接する山王商店街をはじめとする中心市街地の振興、また、まちキネ存続のため署名活動が行われている状況を考慮し、地域貢献の観点から建物と街並みの保全、映画機能の一部維持を図るため、市に対し、公益事業としての映画機能維持に関わる改修支援と映画機能を生かしたスペースの運営組織について相談があった。

市は、(株)まちづくり鶴岡は山王商店街の一組合員であり、まちキネ閉館は商店街振興にも大きな影響があることから、山王商店街、また山王商店街の振興発展を目的とする山王まちづくり(株)に相談した。山王まちづくり(株)は、(株)まちづくり鶴岡と同じ時期に設立され、まちキネ開設にあたり連携しビジョンを共有していたことから、山王商店街の魅力としてまちキネを再生し、市とともに商店街振興を図りたいとの相談があった。

そこで、市では、令和 2 年 8 月から、鶴岡市社会福祉協議会、荘内銀行、山王まちづくり(株)、国や県など関係する組織・団体と協議調整を進め、再整備に向けた合意形成と、映画館改修への支援と運営補助等調整について協議を進めることとなった。

【市民有志による存続活動の展開】

令和2年5月に閉館したまちキネの建物と上映機材を守ることを目的に、市民や映画関係者等による「まちキネの存続と再生を願う会」が組織され、6月22日から市内外で署名活動が展開された。8月5日までに10,619筆が寄せられ、同会では8月から12月にかけて、署名活動の報告をまちキネに関わる各関係機関に行った。

また、11月29日に「まちキネの創造的再生とまちづくりを考えるフォーラム」と題し、まちづくりや建築の専門家や市民など40人が参加し、まちキネの魅力や活用案について議論が交わされた。それを踏まえ、「まちキネの創造的再生と中心市街地活性化のために」として第2回利活用検討会に提案がなされた。

（2）映画機能付交流スペース利活用検討会について

【検討会の経過】

映画機能付交流スペース利活用検討会（以下、「検討会」という）は、まちキネへの本部事務所移転整備を計画する鶴岡市社会福祉協議会において、地域貢献の観点から、映画機能を維持するスペースとして運営主体に貸付けるシネマ3・4区域を「映画機能付交流スペース」と位置づけ、映画機能を発揮した多様な交流の促進と持続的運営に向けたアイデアを結集するため、市が事務局となり令和2年11月25日に設置したものである。

検討会では、文化施策に精通した同志社大学経済学部の下下義之教授を座長に、まちキネの存続と再生を願う会、鶴岡市社会福祉協議会、荘内銀行、鶴岡信金、山王まちづくり(株)、鶴岡山王商店街振興組合の関係者から参画頂き、令和2年11月から令和3年1月までの間、3回の会議を開き、まちキネの改修計画、映画機能付交流スペースの運営方針、映画機能と福祉・教育推進、商店街振興等など付加機能との相乗効果、クラウドファンディング、ボランティア等市民からの応援・共感、新しい映画館としての将来の方向性や課題について意見を交わした。

【改修計画】

鶴岡市社会福祉協議会では、シネマ1区域を事務室に、シネマ2区域を会議室等諸室に、店舗・厨房スペースを風除室・ロビー・トイレに、エントランスホールを介護予防室（会議室）にそれぞれ改修し、本部事務機能を集約することを計画していた。

エントランスホールについては、福祉事業やイベントなどで利用できるような機能を付加し映画機能との相乗効果を図り有効活用する意見が出された。また、映画機能付交流スペースへの入館者のアクセス向上など視点から検討が重ねられ、第3回利活用検討会において既存出入口を利用し、接続廊下とロビーで同スペースにアクセスが可能となる改修計画平面図（R3.1.12案）が提示された。

今後、令和3年度に事務局機能や介護予防サービス等の提供のあり方などについて検討を重ねながら、改修図面の詳細が決定する予定である。

【運営方針】

映画機能付交流スペースは、定員 80 席、40 席の 2 スクリーンからなるシネマ 3・4、映写室 1 室（35mm フィルムとデジタル映写設備各 2 台）、受付、事務室、ロビーから構成される。

山王まちづくり(株)では、全国の地方都市におけるミニシネマ事例を参考とし、2 スクリーンは少ない経費で持続的に運営できるメリットがあることから、映画文化の振興（自主事業）と映画機能を活かした地域との多様な交流の創出（連携事業）の 2 つを事業方針として掲げ、収益をあげつつ地域活性化に資する新しい映画館としての運営を目指すとしている。

同社では、不確定の要素もあるが、持続的な運営の目安の 1 つとして、専従社員 1 人を雇い 2 スクリーン（120 席）で 1 日 8～10 回上映することで、年間来館者数を約 1 万 7 千人、年間収支を約 2,100～2,200 万円と見込んでいる。まちキネは 4 スクリーン（437 席）で最大年間 8 万人の集客があったが、コロナ禍や従前の経営状況等を勘案しつつ、山王まちづくり(株)が採算を維持するためには、映画への関心や来館意向を把握するための市場調査、ボランティアスタッフ等の活用など運営コストの低減、会員組織、クラウドファンディング、貸館事業、近接する商店街サービスとの組み合わせによる多様な収益源の確保など経営計画での十分な検討が必要である。

【映画機能と付加機能との相乗効果】

持続的な経営のためには、映画鑑賞料による収入は大きなウェイトを占める。しかし、来館者数は映画プログラムによって左右され、また、映画のオンデマンド化による家庭での鑑賞機会の充実など競合環境が充実している状況もあり、安定的な来館を見込むためには、映画だけでなく映画館として映画機能を活用した地域コミュニティの公共財としての機能を発揮することが求められる。まちキネは映画上映に加え地域の多様な団体を巻き込んだ企画上映やイベントを行い、10 年間、来館者数の増加につなげてきた実績があり、まちづくり鶴岡(株)と山王まちづくり(株)とでそのノウハウの継承を図るとしている。

検討会では映画機能を、①高齢者が映画を観て交流するなどの生きがいづくり及び認知症予防、障害者を対象としたバリアフリー映画上映などの福祉的機能、②デジタルアーカイブや視聴覚機能を活用する生涯学習講座や総合学習・メディアリテラシーでの活用等の教育的機能、③商店街イベントや映画分野でユネスコ創造都市に加盟している山形市との連携、また、高校生や大学生など若い人を取り込んだクリエイティブな活用等の地域活性機能の 3 つの側面から機能連携を図り、一過性のイベントではなく、継続的に人が集まる仕掛けを構築し、来館者や商店街等の来街者増加につなげるための意見が出された。

施設所有者となる鶴岡市社会福祉協議会、映画機能付交流スペース運営を担う山王まちづくり(株)、中心市街地活性化に向けてまちキネ再整備のスタートアップに支援する市において、福祉・教育・地域活性化事業などの政策間連携が新しい映画館運営の成否を握るとの認識を共有するとともに、映画館再開を願う市民や団体等、映画館経営等の有識者や金融の専門家も加えた運営協議会を組成し、映画機能を活用した新しい福祉や教育等の形について、このプラットフォームを基盤に検討をも重ね全国に先駆けた取り組みとして推進する。

【市民からの応援・共感】

平成 22 年のまちキネ開館は、本市の近代化を支えたシルク産業を実証する近代産業遺産として昭和初期の貴重な構造をもつ絹織物工場を、市民の生活文化拠点である映画館として地元経済界がリードし再生したプロジェクトである。令和 2 年の閉館にいたる 10 年間、民間企業がその運営を担い、庄内唯一の地元資本による映画館として本市中心市街地の文化的魅力の 1 つとして、また、近接する山王商店街等とも相乗効果を発揮しながら、来街者の増加など商店街振興にも寄与してきた。

閉館後のまちキネは、鶴岡市社会福祉協議会事務機能と映画機能付交流スペースが複合した新しい施設として再生する計画であり、映画機能は 4 スクリーンから 2 スクリーンに縮小するが、映画上映に加え、福祉・教育での活用、商店街活性化や文化・観光振興など多様な利活用を図り、学生や若い人も巻き込みつつ新しい交流が生まれる施設を目指している。

この施設が市民の生活文化基盤の 1 つとして持続し豊かな地域社会の実現に貢献するため、映画機能と福祉や教育などの社会的機能をもつ新しい映画館としての価値を提示しながら、クラウドファンディングやサポーター組織など応援と共感に支えられる映画館として、市民と運営主体となる山王まちづくり(株)とで良好な関係を構築し、映画機能付交流スペースを持続的運営することが重要である。

2 映画機能付交流スペース利活用検討会を踏まえた今後の取組み

(1) 鶴岡市社会福祉協議会の役割－鶴岡まちなかキネマ再整備方針

- 分散した本部事務局の管理機能をまちキネに統合し、法人事務の効率化とガバナンス強化を図る。にこふるの市民サービス部門は市と協議を進め維持・向上を図る。
- 介護予防室（エントランスホール）については、運営主体と協議し、法人業務に支障の無い範囲で随時に貸し出す。
- まちキネの産業文化遺産としての建物の保全と映画館存続に配慮し、市と協調して4スクリーンある映画館のうち2スクリーンを残し、本部事務局の運営に支障がない範囲で映画機能付交流スペースとして運営主体に貸し付けることで、街並みの保全と映画機能の存続を図る。
- 映画機能付交流スペース運営主体と利用者の利便性を高めるため、既存の入口を使用し、館内に接続通路を設置するとともに、ロビーと受付・事務室を新設する。
- 改修スケジュール R3：設計、R4.4～：改修工事、R4.11月頃オープン予定

(2) 山王まちづくり(株)の役割－映画機能付交流スペース運営方針

- 映画機能付交流スペースの名称は「鶴岡まちなかキネマ」とする。
- 行政や教育・文化機関、市民団体等との協力体制のもと、良質な映画上映など映画機能を核とする地域コミュニティの場を創出し、地域の活性化を図る。
- 「映画文化の振興（自主事業）」と「映画機能を活かした地域との多様な関わりの創出（連携事業）」を展開し、市民の共感と応援に支えらえる映画館として持続的に運営する。
- 映画館運営を立ち上げるスタートアップとしてクラウドファンディングや公的支援が必要であり、それを基に運営基盤を構築し持続的運営を図る。
- 令和4年度の開館を目指し、市場調査事業としてまちキネを活用した実験上映、サポーター組織組成、クラウドファンディング等を実施する。

(3) 鶴岡市の役割－市等関係機関の連携方針

- 鶴岡市社会福祉協議会・山王まちづくり(株)・山王通商店街・市・専門家・市民等を構成員とし運営協議会を発足し、市が事務局を担う。
- 関係する機関との調整を図り、福祉・教育機関との連携、商店街振興や地域活性化に資する事業等を促進する。
- 関係課等と協議調整を進めながら、福祉や教育分野等での市の施策における映画機能付交流スペースの利活用を推進する。
- 国補助事業を活用し、映画機能付交流スペースの改修に支援するとともに、持続的な映画機能付交流スペースの運営計画に基づきそのスタートアップを支援する。

3 映画機能付交流スペース利活用検討会 参考資料

(1) 意見概要

	持続的な映画館運営	映画文化の振興	地域との多様な関係(教育・福祉等)
第1回利活用検討会 令和2年11月25日(水) 16時～17時30分	<ul style="list-style-type: none"> 必要最小限の人数で運営(正社員1人、パート1人を想定) 先進事例の検証 会員、大使の募集(年会費・登録料) 休眠預金の活用 経費削減と同時に人が集まる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 映画館での映画鑑賞という他者とのつながりを生む文化を守る 直接配給は困難ではなく配給代行に新作上映 同一監督作品上映(長期滞在者向け) 上映時間の固定による利便性の向上 私的DVD鑑賞とケータリングの組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 「映画館×福祉」等の施策の複合化を目指す必要がある(例:高齢者や福祉施設入居者等への無料送迎の運行) 障害者だけでなく健康者も対象となるバリアフリー映画の上映 学校の授業、総合学習での利用 高校生や山大農学部生の取込(例:チャレンジショップ、IT塾やITスキルの向上を図る塾) 社会教育施設の補強
第2回利活用検討会 令和2年12月15日(火) 17時～18時40分	<ul style="list-style-type: none"> 想定損益分岐:約1万7000人/年(平日50人、土日各90人) 来場者のニーズを継続的にリサーチ デジタル映写機の更新 映画チケットに山王商店街の飲食店メニューをセット販売 市内商店街と連携しどこでも特典がある仕組み 映画上映と貸館事業で売上げ増 	<ul style="list-style-type: none"> 最新作、良作など見応えのある作品上映 想定上映回数:1日8～10回(6～8種類の作品) リクエスト上映は採算性が見極めが重要 デジタルアーカイブによる企画上映「旧町名を語る会」など 市民所有のフィルムなどをデジタル化し、市のPR等に利用 鶴岡出身の映画監督の作品、舞台の映画上映 映画上映とケータリングの組み合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 教育、福祉事業連携の庄内地方全体への拡大 福祉系の方々が学習できる映画上映 高齢者保養施設として割引等サービス 通所サービス利用時に映画上映するシルバー映画館 介護予防室でのフィジカルメニューとアーカイブを活用した回想法の事業を組み合わせた高齢者のコミュニティスペースとして活用 メディアリテラシーのための映画・映像に子供の時からふれて学ぶ教育 市のスクールバスでのアクセスの保証による移動リスク低減 映画館を文教施設として位置付ける
第3回利活用検討会 令和3年1月12日(火) 17時～18時30分	<ul style="list-style-type: none"> 商業的な映画館運営に加え社会的機能の付加 徹底した情報公開、楽しさの提示 	<ul style="list-style-type: none"> 通常上映と企画上映のバランス 	<ul style="list-style-type: none"> 行政のリーダーシップの発揮 校外学習の時間の確保が困難→社会や理科、国語の教科の範囲内での映画上映 認知症予防プログラムとしての活用

	エントランスホール等施設の活用	市民の巻きこみ	クラウドファンディング
第1回利活用検討会 令和2年11月25日(水) 16時～17時30分	<ul style="list-style-type: none"> エントランスホールの未利用日の使い方 ナイトバザール、デイバザール 定期型マルシェ 食のワークショップ 長山邸跡、石山邸跡との面的活用 	<ul style="list-style-type: none"> 元気で映画好きな地域のお年寄りによるボランティア 映画だけでなく映画館として、地域コミュニティの公共財・共通の財産としての利用 	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達だけではない「共感」、「応援」を獲得する仕組みとして活用
第2回利活用検討会 令和2年12月15日(火) 17時～18時40分	<ul style="list-style-type: none"> 山王バザールとのコラボイベント コンサート、小劇場、eスポーツイベントでの利用 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズに応じてもらえる、市民の声、アイデアを運営に反映した仕組みづくり ボランティア活動や金銭的支援などへ参画したい市民の巻き込み 会員組織、サポーターズクラブなど市民が共感し支える仕組みづくり Webを活用した市民参加型プログラム「復刊ドットコム」など 	<ul style="list-style-type: none"> クラウドファンディングで取組を周知し、共感を獲得 クラウドファンディングが失敗したケースの検討
第3回利活用検討会 令和3年1月12日(火) 17時～18時30分	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防室の壁面は可動式にするなど利便性を高める 	<ul style="list-style-type: none"> マンパワー不足に対するボランティア養成・組織づくり ボランティア養成講座等による運営ノウハウの取得 既存スキームへの理解を得るため、署名をした人などへの丁寧な説明 	<ul style="list-style-type: none"> 映画館として存続するための活用 個別イベント開催のための活用 リターンの変更・継続により何度でも挑戦可能 会員制度の呼び水にもなりうる

市民の共感を得て、市民が支える映画機能付き交流スペースに向けて

- ・課題(収益基盤の確保、テーマ・ターゲットの設定、スタッフ・ボランティアの確保、クラウドファンディング)の検討
- ・自主事業、連携事業に対するニーズ調査
- ・付加機能(芸術の上映、常設・定期イベント)の検討

(2) 映画機能付交流スペース利活用検討会会議資料（第1回～第3回）

次頁のとおり

映画機能付交流スペース（旧「鶴岡まちなかキネマ」シネマ3・4区域）

第1回 利活用検討会

日時：令和2年11月25日（水）午後4時～

会場：市役所別棟2号館22・23号会議室

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 紹介
- 4 報告

利活用検討会について【資料1】

旧鶴岡まちなかキネマの今後について【資料2】

- 5 協議

映画機能付交流スペース利活用のアイデアのたたき台【資料3】

- 6 その他
- 7 閉会

※第2回検討会 日時 _____ 月 _____ 日 () _____ 時～

映画機能付交流スペース 第1回 利活用検討会 参加者名簿
(敬称略)

所属	職名	氏名
同志社大学経済学部	教授	太下 義之
(独行) 国立美術館理事、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、鶴岡市文化芸術推進基本計画策定委員、酒井家庄内入部 400 年記念事業アドバイザー		【座長】
まちキネの存続と再生を願う会	代表	菊池 俊一
鶴岡市社会福祉協議会	常務理事	伊藤 周一
荘内銀行営業推進部	地方創生室長	奥山 弥寿之
鶴岡信用金庫総合企画部	地域創生課長	新橋 芳武
山王まちづくり株式会社	代表取締役	三浦 新
	取締役	本間 葉子
鶴岡山王商店街振興組合	理事長	阿部 等
	理事	北風 秀明

(事務局)	職名	氏名
鶴岡市企画部	企画部長	阿部 真一
鶴岡市健康福祉部	地域包括ケア推進室長	佐藤 清一
鶴岡市商工観光部商工課	商工企画主幹	坂口 礼奈
鶴岡市建設部都市計画課	城下のまちづくり推進主幹	鈴木 英昭
鶴岡市教育委員会社会教育課	専門員	渡邊 雅之
鶴岡市企画部政策企画課	主査	奥山 真裕
鶴岡市企画部政策企画課	専門員	佐藤 紘司

映画機能付交流スペース
 (旧「鶴岡まちなかキネマ」シネマ3・4区域)
 利活用検討会について

1 検討会の目的

旧まちキネのシネマ3・4区域について、映画機能を発揮した多様な交流を促進する拠点として利活用を推進し、持続的な運営を図ることを目的に、文化政策に精通した有識者（座長）、市民団体、地元商店街関係者、金融機関、関係機関による検討会を設置する。

検討会では映画機能付交流スペースの利活用及び運営に関するアイデアを結集するものとし、検討内容は山王まちづくり(株)運営計画の参考として扱う。

2 検討会構成

- ・有識者【座長】 同志社大学経済学部教授 太下義之 氏
- ・メンバー 山王まちづくり(株)、鶴岡山王商店街振興組合、まちキネの存続と再生を願う会、鶴岡市社会福祉協議会、荘内銀行、鶴岡信用金庫
- ・事務局 鶴岡市関係課

3 スケジュール

期日	内容
R2.11.25	第1回検討会 ・映画機能付交流スペースの利活用アイデア
R2.12 上～中旬	第2回検討会 ・映画機能付交流スペースの利活用アイデアごとの収支見通等の検討（資金調達方法、会員等応援者の巻き込み方など） 地方創生交付金 事前相談
R3.1 上旬	第3回検討会（予備開催）
R3.1 中旬	地方創生交付金 申請
R3.1 下旬	利活用検討会の検討結果を公表（予定）
R3.3	地方創生交付金 採択（予定）

4 その他

検討会は公開で行うものとする。

旧鶴岡まちなかキネマの今後について（図訂正後）

資料2-1



旧鶴岡まちなかキネマの今後について

資料 2-2

経過

- まちキネは平成22年5月開業。多い時で年間8万人の来館者を記録する。令和2年5月、新型コロナウイルス感染症拡大など経営環境の急激な変化により、営業継続が難しいとの理由から閉館。
- まちづくり鶴岡(株)の最大債権者で債権団代表の荘内銀行と、かねてから事務所用地を探っていた鶴岡市社会福祉協議会で交渉が始まり、その中で、社協は地域貢献として映画機能の一部を残すことを構想。
- 市は、映画機能を残し事務所移転を考えた。また社協の意向を受け、荘内銀行、社協等との調整を図ってきた。
- 市は、映画機能付交流スペース（コミュニティスペース）の改修費と運営スタートアップ経費に支援を検討するとともに、利活用を議論する検討会を設置する。

地方創生交付金を活用したスケジュール

- コミュニティスペース改修補助は令和3年度
- 同スペース運営主体へのスタートアップ補助は令和3～5年度を想定

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度～
コミュニティスペース改修経費補助		↑		
同スペース運営主体へのスタートアップ補助			↑	

社協移転

オープン

運営の自立化

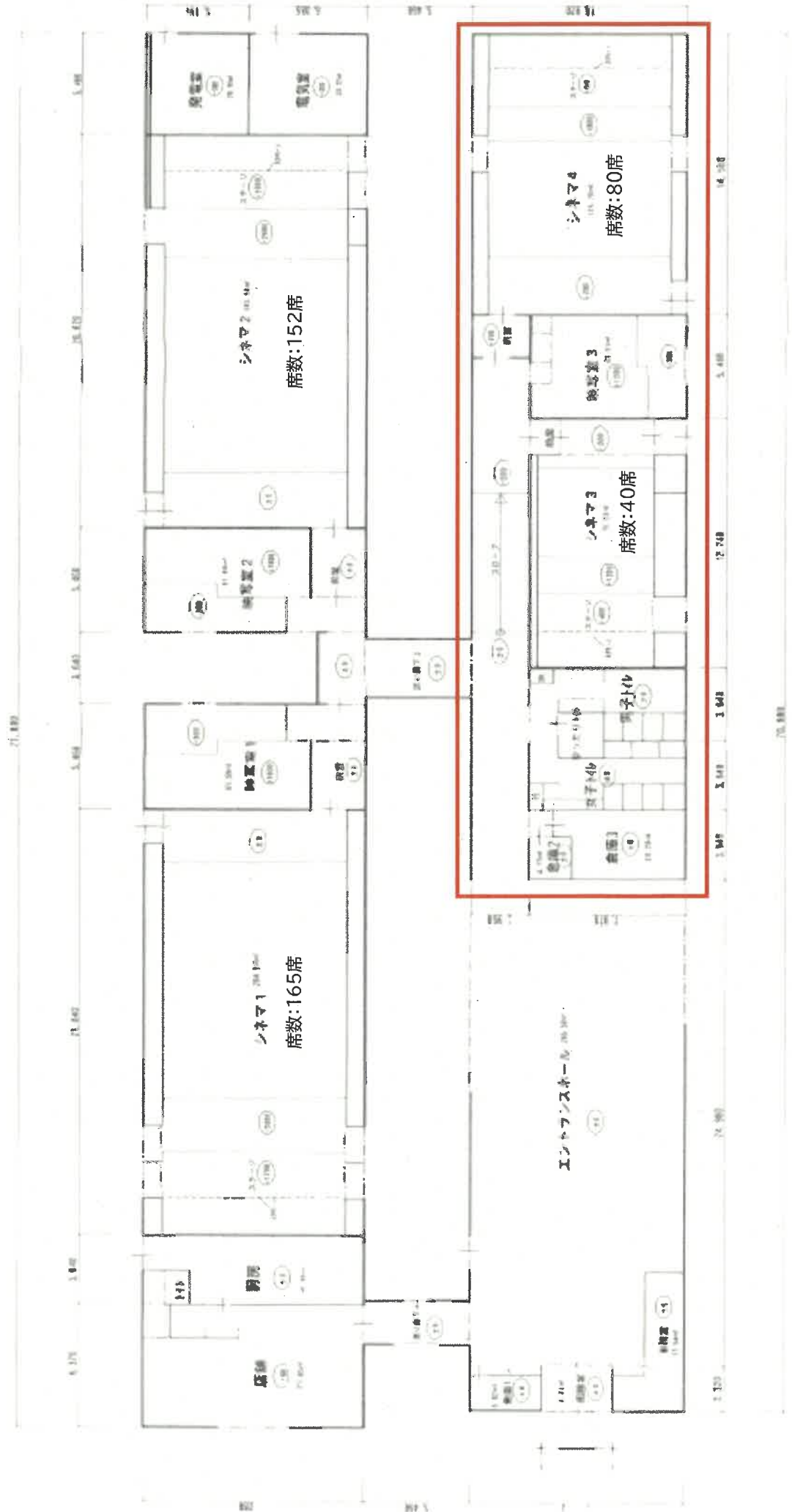
映画機能付交流スペース (コミュニティスペース)の利活用検討会

- コミュニティスペースを持続的に運営していくために、有識者(座長)、市民団体、商店街、関係機関等からのアイデアを結集するもの。
- 検討事項
 - 同スペースの利活用方策、運営方法など

旧鶴岡まちなかキネマの今後について

資料2-3

【参考】 まちキネ現況平面図 (赤線部は検討中の映画機能付交流スペース)



映画機能付交流スペース利活用アイデアのたたき台

「新しいコミュニティシネマの特徴」から抜粋

『映画上映活動年鑑 2019』（一社）コミュニティシネマセンター刊

●老若男女、多様な世代、多様な関心を持つ層が集まることができる。

→子ども向けの映画も、高齢者向けの映画も、メジャーな大作もアート系映画も上映、多様な映画を上映

●映画上映以外のこともやっているコミュニティの場所

→映画以外の事業の実施（ライブ、コンサート、舞台芸術、アート系・文学系、食べ物系等々各種地域イベントとの連携、お祭り、講座、ワークショップ、野外上映、移動上映等々）

●地域の多様な人が映画館に関わっている／地域と密接に関わっている。

→学校との連携（子ども向け上映やワークショップ、学校訪問上映、ワークショップ等）

→映画祭やフィルムコミッションとの連携、共催

→自治体や文化機関との連携

→地域の様々なアーティスト、アート系 NPO、大学、研究機関との連携

→地域の商店街や商工会議所等との連携（割引券、駐車場共有等）

※例えば、鶴岡の場合

- ・ユネスコ創造都市（山形市と鶴岡市、山形県）間の連携

（例）食の映画祭×ドキュメンタリー映画祭＝山形県の映画祭

- ・クリエイティブな若者との連携

（例）高校の映画部、東北芸術工科大学映像学科での活用

- ・福祉施策との連携

（例）一人暮らしの高齢者や敬老会を対象とした映画交流事業 などなど

映画機能付交流スペース（旧「鶴岡まちなかキネマ」シネマ3・4区域）

第2回 利活用検討会

日時：令和2年12月15日（火）午後5時～

会場：市役所別棟2号館21～23号会議室

【次第】

1 開会

2 挨拶

3 報告

第1回利活用検討会の意見概要について【資料1】

改修計画平面図（案）【資料2】

4 協議

新「まちキネ」運営方針（案）【資料3】

5 その他

6 閉会

映画機能付交流スペース 第2回 利活用検討会 参加者名簿
(敬称略)

所属	職名	氏名
同志社大学経済学部	教授	太下 義之
(独行) 国立美術館理事、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、鶴岡市文化芸術推進基本計画策定委員、酒井家庄内入部 400 年記念事業アドバイザー		【座長】
まちキネの存続と再生を願う会	代表	菊池 俊一
鶴岡市社会福祉協議会	常務理事	伊藤 周一
荘内銀行営業推進部	地方創生室長	奥山 弥寿之
鶴岡信用金庫総合企画部	地域創生課長	新橋 芳武
山王まちづくり株式会社	代表取締役	三浦 新
	取締役	本間 葉子
鶴岡山王商店街振興組合	理事長	阿部 等
	理事	北風 秀明

(事務局)	職名	氏名
鶴岡市企画部	企画部長	阿部 真一
鶴岡市企画部政策企画課	企画部次長兼政策企画課長	佐藤 豊
鶴岡市健康福祉部	地域包括ケア推進室長	佐藤 清一
鶴岡市商工観光部商工課	商工企画主幹	坂口 礼奈
鶴岡市建設部都市計画課	城下のまちづくり推進主幹	鈴木 英昭
鶴岡市教育委員会社会教育課	専門員	渡邊 雅之
鶴岡市企画部政策企画課	主査	奥山 真裕
鶴岡市企画部政策企画課	専門員	佐藤 絃司

映画機能付交流スペース第1回利活用検討会 意見概要

利活用の方針

- 映画だけでない映画館
- 市場原理ではない映画上映
- 人が集まる仕掛け
- 運営する側も楽しめる映画館
- 赤字にならない運営方法構築
 - ・上映時間の固定
 - ・ボランティアスタッフ活用
 - イベントスペースホールの活用

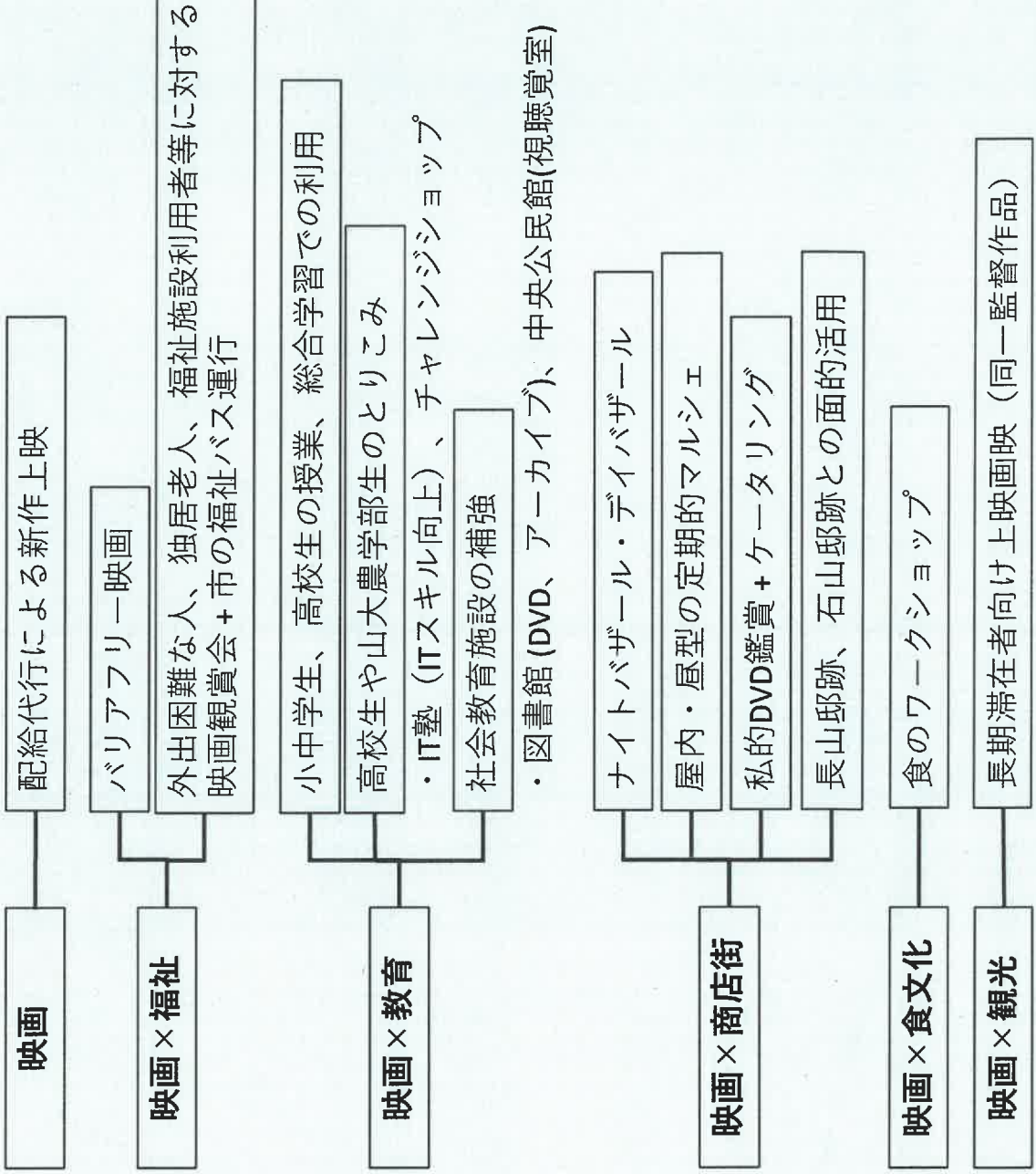
協力体制（収益源の多様性）

- ・クラウドファンディング
- ・休眠預金口座の活用
- ・会員、大使の募集(年会費・登録料)

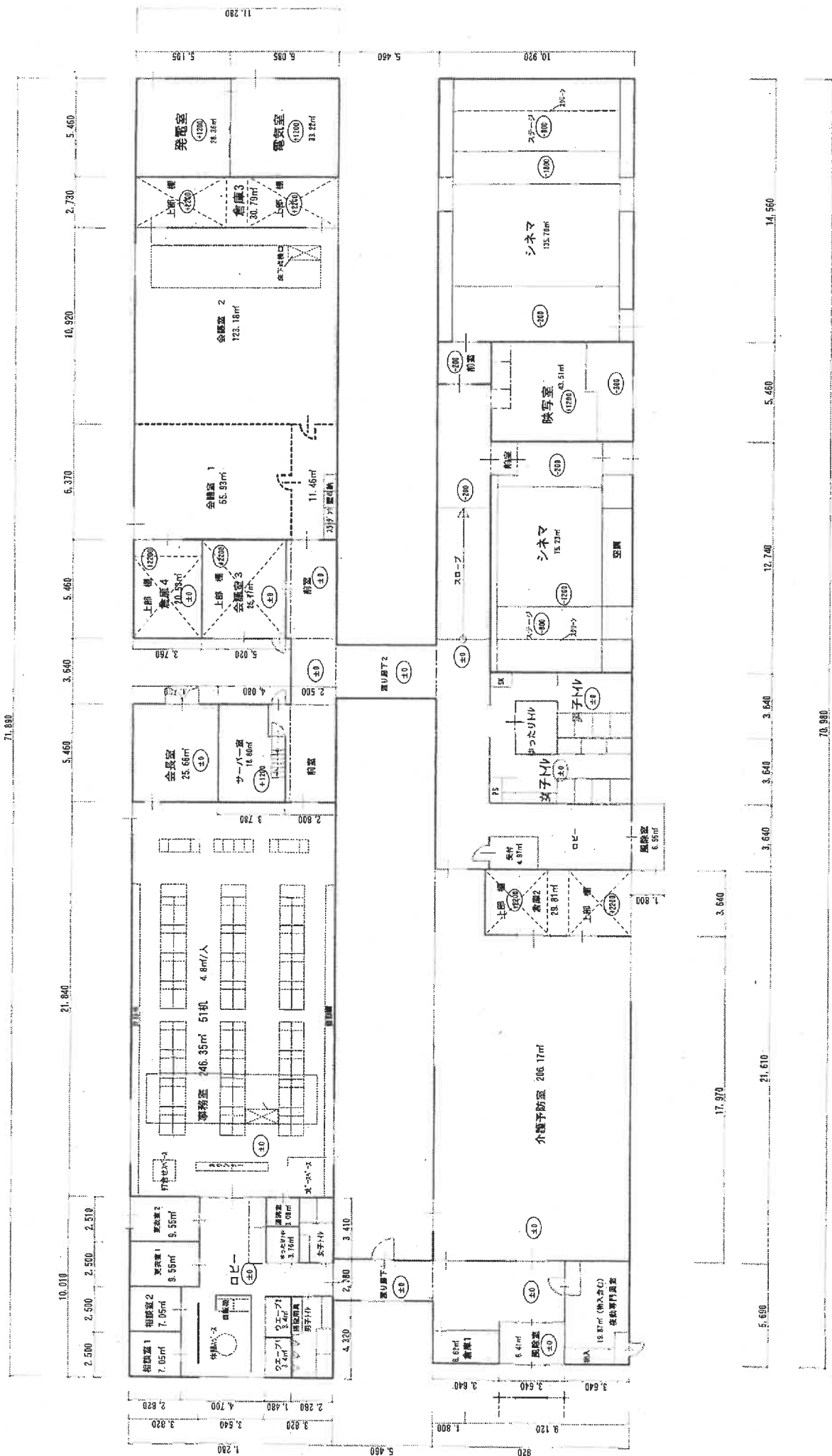
先進事例

- ・シネマ尾道（尾道市）
- ・フォルツァ総曲輪（富山市）
- ・深谷シネマ（深谷市）
- ・アミューあつぎ.com（厚木市）
- ・国際アート・カルチャー都市（東京都豊島区）
- ・ゆるゆる市（河北町）

利活用の仕組み



資料No.2



改修計画平面図(案)

映画機能付き交流スペース第2回利活用検討会資料

新「まちキネ」運営方針（案）

1 理念

行政や教育・文化機関、市民団体等との協力体制のもと、良質な映画上映など映画機能を核とする地域コミュニティの場を創出し、もって地域の活性化を図ることを目指す。

2 事業方針

(1) 映画文化の振興【自主事業】

①通常上映

- ・上映回数：2スクリーン8回～10回／日（1スクリーン4～5回／日）
- ・作品数：6～8本。
- ・上映作品：最新作から感動できる良作、ドキュメンタリーなど見ごたえのある作品

②企画上映

- ・上映作品：映画サークルによる上映、観客のリクエスト上映、eスポーツなど映画以外のコンテンツ上映

(2) 映画機能を活かした地域との多様な関わりの創出【連携事業】

①教育機関等との連携

- ・事業内容：小中高の総合学習や社会教育事業等での利用（教育映画、視聴覚教材アーカイブ等）

②福祉機関等との連携

- ・事業内容：バリアフリー映画上映、福祉施設利用者等に対する映画鑑賞会

③地域づくり事業との連携

- ・事業内容：ユネスコ創造都市事業「食の映画祭」の利用、山王商店街イベントと連動した特別上映、講演会・コンサート等での利用（貸館）

3 建物の利用方針

- ・スクリーン3、4、トイレはそのまま残し、トイレを社協と共用。職員休憩室（倉庫3）の壁を切り取りエントランスにして風除室設置（受付カウンター場所は要検討）
- ・入口までの誘導路整備
- ・上映機材などの装置の整備
- ・（提案）旧エントランスホールの共有利用

4 運営体制等

- ・社員一人、パート一人の二人体制。ボランティアスタッフの活用
- ・会員組織、サポーターズクラブ等の市民が共感し、支える映画館の検討
- ・館内販売はすべて自動販売機

6 令和3年度 of 取組み

①運営協議会の設立

- ・山王まちづくり(株)、社会福祉協議会、市関係課、その他関係者による運営協議会を設立し、令和4年度の開館に向け事業調整等を行う。

②運営スタートアップ事業

- ・先進事例調査（全国のコミュニティシネマ等）
- ・機器操作研修（デジタル・フィルム映写機器操作）
- ・専門人材招聘（映画経営専門家等による経営計画策定など）
- ・事業可能性調査（テスト事業の実施、配給会社との交渉）

7 収支試算

企画運営（案）

企画映画上映 企画映画

鶴岡の熱烈な映画マニアの方が監修する企画映画
マニアが多い寅さん特集・ゴジラ特集など
鶴岡出身の映画監督・俳優の企画映画

映画愛好会などとの連携

つるおか食文化映画祭実行委員
庄内ドキュメンタリー映画友の会
鶴岡生協映画同好会
山形ドキュメンタリー映画祭実行委員会（別紙）

デジタルアーカイブ

テーマに沿った映像・写真のアーカイブ
鶴岡に特化したニュース映像のアーカイブして上映
旧町名時代の映像・写真などをアーカイブして展示
鶴岡の写真家・著名人の写真などのアーカイブ
鶴岡市民が撮影した古い映像等をデジタル化
福祉アーカイブス
福祉に係る映画・デジタルコンテンツの展示
鶴岡に係る映画のアーカイブ
藤沢周平原作映画のアーカイブ
鶴岡出身の監督・俳優の作品アーカイブ
鶴岡が舞台の映画のアーカイブ

その他イベント企画

商店街との連携

デイバザールの開催（夜間は夢屋台など）
山王ナイトバサールとの連携イベント
コンサート・小劇場会場として
eスポーツイベント（別紙）

長山邸・石山邸の活用（別紙）

芭蕉ギャラリー
ミュージアムカフェ
コミュニティガーデン

12

山形が生まれたテレビ・ドキュメンタリーが輝いた!

金曜上映会 ほか

www.yidff.jp

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021
YAMAGATA International Documentary Film Festival
October 7-14, 2021
Call for Entries

1.15

山形が輝いたテレビ・ドキュメンタリーが輝いた!

金曜上映会特別版・やまがた市民映画学校

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021
YAMAGATA International Documentary Film Festival
October 7-14, 2021
Call for Entries

10:50
希望の一滴～希少難病に光!～番組製作者トーク
ここまで来た遺伝子治療～46分+番組製作者トーク
妖怪を見た男～近代建築界の巨人伊東忠太の世界～46分
14:10
妖怪を見た男 46分+番組製作者トーク
希望の一滴 46分

難病AADC欠損症に苦しむ兄妹の治療経過、患者家族の思い、医師たちの献身的な取り組みを9年間にわたってつづぎに記録した『希望の一滴』。神社建築の権威、日本建築史の創始者と書かれた『妖怪を見た男』。伊東忠太の目的をこよなく愛し異端児的な評価を受けつづけてきた伊東忠太の表現とは何かを聞き明かす『妖怪を見た男』。

※10:50と14:10の上映順が異なりますのでご注意ください。

山形市民会館 小ホール(山形市青蓮町2丁目) 申込フォーム
鑑賞会員無料/要申込 023-666-4480 もしくは
主催:認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
共催:山形創造都市推進協議会

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021

YAMAGATA International Documentary Film Festival
2021年10月7日[木]～14日[木]

作品募集

*インターナショナル・コンペティション:
2021年4月15日締切
*アジア千波万波:2021年5月15日締切

詳細はWebサイトをご覧ください。www.yidff.jp

作品募集ポスター・デザイン(本号表紙)は、東北芸術工科大学との連携のもと、グラフィックデザイン学科3年生65名の方々に取り組んでいただきました。審査の結果、高山珠名(たかやますずな)さんのデザインに決定いたしました。

【デザインコンセプト】
このポスターのテーマは「ふとした繋がりが」。どのような場面、時間でも、何気ないストーリーには生まれています。ドキュメンタリーはその意図していない自然な風景を映し出していると思えます。そして、作品は見た人に様々な影響を与え、それは人それぞれです。暗い感情や、明るい感情、さまざまな感情を、映画作品同様にこのポスターから感じたいです。

写真を対照的なものにしたのは、そうすることで、違うストーリーに見えても、木の幹が繋がっていることで、同じ場所についての証明、繋がりがあろうということも表現しています。木は縦軸を表し、過去から現在へ時間の経過。また、私たちの歩いている地上が、縦軸となり、同じ時間を共有する様々な物事の繋がりを表しています。

また、このご時世ということもあり、そのような雰囲気の中でも、ポスターのこの自然な風景をどこか身近に感じ、たくましくの方々に興味を持って、応募していただけたらと考えます。

フィルムを捨てないで!

「懐かしい」を未来へ!

ご自宅に眠っているフィルムはありますか? 何気なく撮影された個人や家族の記録のなかに、人々の記憶を蘇らせ、新しい発見をもたらすような地域の宝物が見つかるかもしれません。

そんなフィルムも、放っておくと急速に劣化が進んで二度と観られなくなってしまう。

映してみたけれど映写機がない、何のフィルムか分からない、などありましたら、まずはご相談下さい。

伊山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局 023-666-4480

311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ
www.yidff311docs.jp

2011年3月1日に起きた東日本大震災の記録映画とその作品資料を蒐集・保存し、作品情報を出来る限り発信するプロジェクトです。登録作品は、山形ドキュメンタリーフィルムアーカイブ(ホームページ)で見ることができます。

ブログ「ドキュムライブ」 www.yidff-live.info.....
Twitter @yidff_8989
Facebook @yidff
メールマガジン「YIDFFニュース」(毎月1回配信)
www.yidff.jp/news/subscription
www.yidff.jp/news/subscription

12-18

山形ドキュメンタリーフィルムアーカイブ
金曜上映会

YIDFF 2019 アンコール7:ミコトベレザとアメリカ
14:00, 19:00 (3作品2回上映)
ドラゴ! YIDFF 2017 アジア千波万波
監督:ミコトベレザ/アメリカ、フィリピン/2014/8分
ディスインテグレーション93-96
監督:ミコトベレザ/アメリカ、フィリピン/2017/6分
ノー・デー・ター・ブラン YIDFF 2019 アジア千波万波
監督:ミコトベレザ/アメリカ、フィリピン/2018/70分

アメリカ大陸を横断する長距離列車に揺られながら、物理的でないどこかへ進む映画という旅。家族の物語を伏線に、アメリカの断片を見せてくれる「ノー・デー・ター・ブラン」。フィリピン、マニラで生まれ、25年以上にわたって不法移民としてアメリカに滞在している監督の経験が生み出した短編『ドラゴ!』『ディスインテグレーション93-96』も併せて上映。

YIDFF 2019 アンコール8:
フレデリック・ワイズマンとアメリカ
14:00, 18:00 (2回上映)
インディアナ州モンロヴィア
YIDFF 2019 インターナショナル・コンペティション・審査員特別賞
監督:フレデリック・ワイズマン/アメリカ/2018/143分

2016年のアメリカ大統領選挙の結果を受けて、監督はインディアナ州の農業の町モンロヴィアを題材に結び、昔ながらの価値観、生活様式を語り続ける「善きアメリカ人」の姿を浮かび上がらせる。軽やかな町のスケッチが

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021

YAMAGATA International Documentary Film Festival
2021年10月7日[木]～14日[木]

鑑賞会員無料(当日受付にてご入会下さい)
会費・入会金は不要です(本法人「正会員・賛助会員」制度とは別です)。
会場:山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー
山形市平久保100 山形国際交流プラザ(ビッグウイング)3F 試写室
主催:認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策のため、ご協力をお願いいたします。

※施設から感染者が確認された場合に備え、受付でお名前、ご連絡先をご記入いただきます。この個人情報はこの目的以外には使用せず、30日間厳重に保管し、期間終了後は適切に廃棄します。

※マスクの着用、咳エチケットへのご協力をお願いします。
※発熱など体調不良のある方はご来場をお控えください。
※来場前、ご退場後に会場内の消毒、換気を行います。
※状況により、やむを得ず上映会を中止する場合がございます。

山形の映像作家特集

～ドキュメンタリー編～

山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映された経歴のある山形在住のドキュメンタリー映像作家2名の作品を上映します。午前部は、岡崎孝監督の「平成から令和への道」です。午後部は、阿部浩二監督の「世界とつながった映画館」(2017/67分)を上映します。各回ともにゲストトーク付きでの上映となります。ぜひご参加ください。

12月26日[土] 10:30, 13:30
山形まなび館 多目的ルーム (山形市本町1-5-19)
定員:各回先着20名(申し込み先着順)

事前に申し込みが必要となります。参加を希望する方全員の氏名、住所、連絡先(携帯電話)を明記の上、ご希望の回(午前または午後)を下記電子メールまたはお電話にてお申し込みください。
※新型コロナウイルス感染症対策のためマスク着用をお願いいたします。

【お問い合わせ・申し込み】山形市創造都市推進協議会 事務局
山形市旅鷹町2-3-25 山形市企画調整部文化振興課内
Eメール: creative-yamagata@yamagata-yamagata.jp
電話: 023-641-1212 (内線 769, www.creative-yamagata.jp)

ドキュムユース

山形国際ドキュメンタリー映画祭の高校生チームです。いろいろな上映会やイベントを企画してみよう。イベントなどのレポートは、ブログ「ドキュムユース」に掲載しています。メンバー募集中。
http://www.yidff-live.info/tag/ドキュムユース/

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
をご支援ください
www.yidff.jp/support

映画祭や上映会、映画教育・支援活動、アーカイブ活動の継続、新しい事業へのチャレンジへのご支援をお願いします。

12-22

山形ドキュメンタリーフィルムアーカイブ
金曜上映会

YIDFF 2019 アンコール8:
フレデリック・ワイズマンとアメリカ
14:00, 18:00 (2回上映)
インディアナ州モンロヴィア
YIDFF 2019 インターナショナル・コンペティション・審査員特別賞
監督:フレデリック・ワイズマン/アメリカ/2018/143分

2016年のアメリカ大統領選挙の結果を受けて、監督はインディアナ州の農業の町モンロヴィアを題材に結び、昔ながらの価値観、生活様式を語り続ける「善きアメリカ人」の姿を浮かび上がらせる。軽やかな町のスケッチが

山形ドキュメンタリーフィルムアーカイブ

1989年から2019年に山形国際ドキュメンタリー映画祭に記録された15,000本以上の作品(プレビュー)、東日本大震災の記録映画とその作品資料を蒐集・保存を行うプロジェクト「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」(www.yidff311docs.jp)に登録された作品も掲載することが出来ます。「映画館での公開が快まった作品などは、視聴できない場合があります。

また、映画に関する書籍、雑誌、国内外の映画祭カタログなども館内で閲覧いただけます。お気軽にご利用ください。

山形市平久保100 山形17-00
開館時間: 10:00～17:00
休館日: 月・火曜(祝日を除く)、年末年始

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021

YAMAGATA International Documentary Film Festival
2021年10月7日[木]～14日[木]

作品募集

*インターナショナル・コンペティション:
2021年4月15日締切
*アジア千波万波:2021年5月15日締切

詳細はWebサイトをご覧ください。www.yidff.jp

作品募集ポスター・デザイン(本号表紙)は、東北芸術工科大学との連携のもと、グラフィックデザイン学科3年生65名の方々に取り組んでいただきました。審査の結果、高山珠名(たかやますずな)さんのデザインに決定いたしました。

【デザインコンセプト】
このポスターのテーマは「ふとした繋がりが」。どのような場面、時間でも、何気ないストーリーには生まれています。ドキュメンタリーはその意図していない自然な風景を映し出していると思えます。そして、作品は見た人に様々な影響を与え、それは人それぞれです。暗い感情や、明るい感情、さまざまな感情を、映画作品同様にこのポスターから感じたいです。

写真を対照的なものにしたのは、そうすることで、違うストーリーに見えても、木の幹が繋がっていることで、同じ場所についての証明、繋がりがあろうということも表現しています。木は縦軸を表し、過去から現在へ時間の経過。また、私たちの歩いている地上が、縦軸となり、同じ時間を共有する様々な物事の繋がりを表しています。

また、このご時世ということもあり、そのような雰囲気の中でも、ポスターのこの自然な風景をどこか身近に感じ、たくましくの方々に興味を持って、応募していただけたらと考えます。

ドキュムユース

山形国際ドキュメンタリー映画祭の高校生チームです。いろいろな上映会やイベントを企画してみよう。イベントなどのレポートは、ブログ「ドキュムユース」に掲載しています。メンバー募集中。
http://www.yidff-live.info/tag/ドキュムユース/

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
をご支援ください
www.yidff.jp/support

映画祭や上映会、映画教育・支援活動、アーカイブ活動の継続、新しい事業へのチャレンジへのご支援をお願いします。

本法人へのご入会について
認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭を継続的に支援して下さる方のための会員制度です。

正会員(個人)	あり	賛助会員(個人)	なし
年会費	なし	年会費	なし
入会金	10,000円	入会金	5,000円

ご寄付も受け付けております
山形国際ドキュメンタリー映画祭は「認定NPO法人」です。認定NPO法人に寄せられた寄付金には、寄付金控が課せられ、寄付を行う側、受け取る側、双方に有利になります。詳しくは趣寄りの税務署にお問い合わせください。

編集・発行:認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
〒990-0044 山形市木の葉町9-52 木の葉マンション201
電話:023-666-4480 FAX:023-625-4550
Eメール:info@yidff.jp ウェブサイト:www.yidff.jp

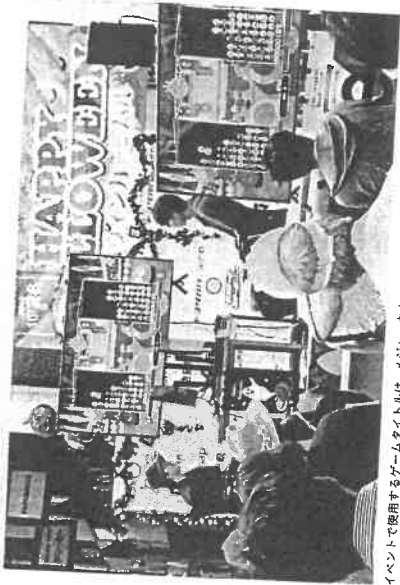
2月18日

街並みの中にステージが出現！ 地域を巻き込むeスポーツイベント

eスポーツを興隆し、地場産業の振興に貢献する「eスポーツ大会」を開催し、地域を巻き込む。eスポーツ大会に選手した地場産業「eスポーツ大会」を開催し、地域を巻き込む。



加藤寛弘さん
徳島県議会議員
地方創生局長
兼 議員特別議員
(令和2年9月現在)



イベントで使用するゲームタイトルは、メジャーなもの、かつルールがわかりやすいものを選ぶようにしている。会場は、ユーザーが多いeスポーツゲームにも力を入れているという。

街に人々を呼び込むeスポーツのイベント

徳島県で、県・徳島eスポーツ協会などが中心となり、年一回開催しているイベント「マチ★アソビ」。

「マチ★アソビ」は徳島県内の商店街に賑わいを生み出すために始まったイベントで、初開催は2009年。当初は、音響が興味をもつしかけによって地域を活性化や地域の人材育成につなげようという考えから、アニメの要素を取り入れたイベントとしてスタートした。

その「マチ★アソビ」に初めてeスポーツの要素が加えられたのは2018年。まさに日本で「eスポーツ」という言葉が広がり、注目を集めた時期だった。

eスポーツで取り上げられるゲームでは、アニメに出演する人気声優の原や、キャラクターのアニメーションが採用されることも多い。徳島県庁の加藤寛弘さんは、こうしたアニメとeスポーツの親和性の高さに注目した。

「もともと徳島県では全県をまわってeスポーツ大会など、100を『強み』とする取り組みに力を入れてきた経緯があります。そこにeスポーツが盛り上がり、これまで流れを築いて、地域を盛り上げるツールとして使えないかと考えました。まずは、アニメとeスポーツの両方で盛り上げられ

るよう、『マチ★アソビ』の中でのイベントを企画しました。

eスポーツのイベントは、音響エッセイ、東京ビッグサイトなどのアリーナや、音田機材と言語機器が整備された施設など、いわゆる「eスポーツ」を使用して行われることが一般的。しかし「マチ★アソビ」では、通り人が行き交う街並みの中にeスポーツのステージを設置することで、地域を巻き込んだイベントになる。人混みももたない会場に入れながらイベントは盛り上がり、通り人々が自由に鑑賞することもできるため、県民や大阪などから開催されるeスポーツ大会とは異なる。このため、新鮮さや、人回りの良さにもなる賑わいを生み出すことができる。

2019年の開催には、「eスポーツ認知講座」を実施。茨城団体の

県代表決定戦で優勝したチームには、日本全国のeスポーツでは初となる県知事杯が贈呈された。

これまで「マチ★アソビ」で開催されたeスポーツイベントには、毎回、1日あたり約1000人が来場している。加藤さんは「マチ★アソビ」に参加する人や足を止めて興味をもつ人の数が増えた」と、eスポーツがもつコンテンツとしての可能性を認識している。

「アニメは観たことがなければわからないことが多く、わからない人にはなかなか楽しめない」という面がありました。一方、eスポーツには野球やサッカーなど、誰でもわかる

内容のゲームや、中学生が楽しめる懐かしさのゲームタイトルもあります。たまたま通りかかった人にも楽しんでも、みんなで一緒に盛り上がることもできる。そんな魅力がeスポーツにはあります。

「eスポーツ」は、人々を巻き込むツール

2019年7月には、徳島eスポーツ協会と協力し、商店街の空き店舗を借り上げたeスポーツのイベントを開催。大学、高校、企業などが出席するステージを設けてPCゲームやレトロゲームなどを設置した。こ

のイベントでの来場者数は1日約5000人にまで上った。もはやeスポーツは「阿波踊り」と同様に、街に賑わいを生み出すコンテンツのひとつとなっている。

加藤さんはさらに「eスポーツをうまく活用できれば、人回りの新しいつながりづくりや地域活性化などでも効果が見込めるのではないかと考えています」と話す。

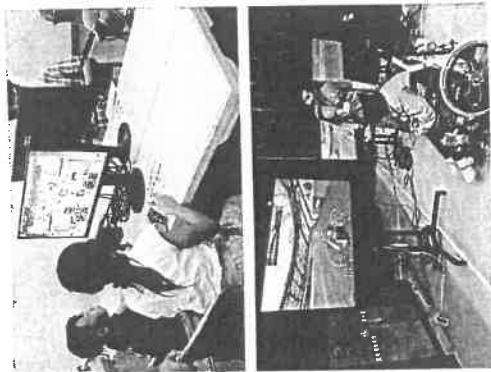
徳島県内では人口の減少や子どもの運動不足などにより、サッカーや野球をする人が足りないためにチームがつかないなど、ルールさえ知らなかったりする子どもが増えている。そこで、スポーツを始める関口を広げて競技人口を増やし、人との交流を深める手立てを模索。サッカーや野球のゲームを通してルールを知り、その場で実際に身体を動かして体験してもらうeスポーツ教室を実施した。

障がい児向けeスポーツクラブの設立や、障がい者施設でのeスポーツ大会開催にも拡大。eスポーツのイベントで高校生が施設を訪問したことがきっかけで、互いに応援し合うような関係づくりが生まれ、例や、自閉症や引きこもりの人がeスポーツに興味を持ち、大会に参加するようになった例もある。県の

取り組みとしてまいりてきた。また、さまざまな方向でeスポーツが、可能性として期待されている。

当初は「県が推し進める取り組みとしては、強みは強みではないか」という意見も集まっていた。しかし、加藤さんは「eスポーツは、『観望する』『応援する』『応援する』といったあらゆる入口の中で、人とかかわる機会がある。立派なコミュニケーションツール」と語る。

「もう『強みは強くない』という理由で手段を選んでいる時代ではありません。ゲームの対戦でもインリアルスポーツ同様、集中力が必須で、チーム戦であれば協調性やチームメイトとの信頼関係も求められる。この点は、職業教育などにつながる部分もあります。eスポーツは、まちづくりやeスポーツ以外でも、あらゆる面で可能性を秘めています。現在は新型コロナウイルスの感染拡大により、人が集まるようなイベントはなかなかできませんが、オンラインのイベントなどで徳島に興味をもつてくれる人を増やすことはできます。まだ、多くの人に徳島に来ていただけるよう、徳島のeスポーツを魅力あるコンテンツに育てていきたいと考えています。」



ゲームを通してアロケラミングの指導や、人々の交流の場を創出し、eスポーツ大会からそれぞれがそれぞれの分野に貢献している。また、eスポーツ大会からそれぞれがそれぞれの分野に貢献している。また、eスポーツ大会からそれぞれがそれぞれの分野に貢献している。

2020年12月15日

まちキネの創造的再生と中心市街地活性化のために

まちキネの存続と再生を願う会

代表 菊池 俊一

1. 市民の提案「複合的機能で相乗効果を」

【提案1】

- ◎スクリーン3・スクリーン4に隣接するエントランス・ホールの利活用・管理運営が必要である。その管理運営を担う市民ボランティア団体を組織し、建物所有者である社協よりエントランス・ホールの利用運営を任せていただく。
- ◎市民団体は、エントランス・ホールを、複合的機能を持たせた半公共的空間として、社協のご理解・ご協力の下で管理運営をする。
- ◎その運営にかかるスタートアップ資金を得るために、市民団体はクラウドファンディングを行う。
- ◎映画館運営を担う山王まちづくり(株)とは十分に連携をとっていく。

【提案2】

- ◎天候に関係なく多様な人々が交流しつつ軽体操などを屋内で楽しむには、それなりの面積を持った空間が必要であろう。
- ◎今回の社協引っ越しを機に、老人福祉センターの機能をまちキネに引っ越しさせて、上記貸しスペースと同居すること（時間的な住み分け）は可能ではないだろうか。また、ボランティアセンターに備えるべき災害ボランティアセンター倉庫（ストックヤード）としては、老人福祉センター跡地が使えるのではないか。
- ◎隣接地で計画されている長山邸跡整備プロジェクトと一体的に進める方が、まちキネエリアを、より魅力的な都心の文化・交流施設へと押し上げてくれるだろう。
- ◎以上より、D棟・E棟、あるいはその跡地を社協および市が買い取り、市が主導して上記のような「夢のある利活用」、「福祉×文化芸術」の実現を検討すべきではないか。

【まとめ（市民の用意）】

市民は、運営へのボランティア参加や経費の金銭的負担を含め、まちキネの創造的再生（複合的機能を持つ映画館の創造）と中心市街地活性化（まちなかに文化・交流施設があることによる相乗効果）に主体的に参画する用意がある。

2. 市民の行動・要望・意見

【署名と市民参加フォーラム】

5月の鶴岡まちなかキネマ（まちキネ）の閉館を受け、当会はまちキネの建物と上映機材を残してもらおうと署名活動を6月22日から8月5日まで展開した。その結果、10,619筆もの署名を市民からいただいた。そのうちの7割が鶴岡市民であるが、山形県以外の全国・海外からも総数の15%を超える署名をいただいた。

11月29日には鶴岡Dadaで市民公開フォーラム【まちキネの創造的再生とまちづくりを考えるフォーラム】を開催した。同月中旬に、旧まちキネを鶴岡市社会福祉協議会（社協）が事務スペースとして利用するとともに地域貢献として上映スペースを残すという案がメディアを通じて明らかとなったことを受け、当会が緊急開催したものである。フォーラムでは専門家から建築や地域の再生、まちづくりに関する講演をいただいた後、参加市民が数グループに分かれ、旧まちキネの利活用について熱心なグループディスカッションを行った。

【まちなかにシネマを】

これらの活動を通じて、まちキネの存続と再生に向けての数多くの意見・要望を市民からいただいた。最も目立ったのは「鶴岡のまちなかに映画館が欲しい」という要望である。隣の三川町にはシネマコンプレックス（シネコン）がある。したがって、車を20分間ほど走らせれば封切り映画を楽しめる環境は今もある。しかし、車を持たない高齢者や中学生・高校生はどうしたらよいのか。大手の配給会社以外の映画作品（ミニシアター系）は観られるのか。そのような映画鑑賞のチャンスが減ったのは間違いないだろう。

【半公共スペース】

市民の声に耳を傾けると、そのような鑑賞機会の減少を嘆いているとともに、この10年をかけて築いた「まちキネ文化」を手放すのは極めてもったいないとの意見も多い。まちキネ文化とは、映画上映・鑑賞だけではなく、音楽ライブ体験や落語、文化講演会、食文化に関わる学習体験など、多岐に渡る文化芸術をまちキネの空間で楽しむことを指している。この豊かさを享受してきた市民からは、まちキネ文化の継承・発展を求める声が数多く聞こえてくる。つまり、市民（まちキネ利用者、まちキネファン）は映画の上映と鑑賞ができる部屋だけでなく、多様な使い方を可能とする多機能な「半公共空間」を求めている。そう、閉館前のエントランス・ホールのような空間である。

【みんなで一緒に映画を楽しむ】

まちキネの建物はバリアフリー設計されており、誰もが映画鑑賞を楽しめる機会を提供していた。その基本理念は、活弁士や字幕ガイド用メガネを使っのバリアフリー上映の開催にもしっかりと現れていた。「障がい者も健常者も映画を楽しめる場が欲しい」との声が

市民からあがっている。ノーマライゼーション。障がい者も健常者と同様の生活ができるように環境を整えるべきという考え方である。いわゆる共生社会の実現であり、これは社協の理念であろう。鶴岡市は今年7月にSDGs未来都市に選定されたが、SDGsの「誰一人取り残さない (leave no one behind) 社会の実現」といった目標も同様の考え方である。様々な理由から映画館で映画を楽しむことが難しい高齢者、障がい者、子連れママさんもみんなと一緒に映画を楽しむ。福祉×文化芸術。バリアフリー上映、高齢者の送迎サービス、各種料金割引、最新上映技術等のアイデア・工夫を用いれば、まちキネが築きあげた「誰もが映画を楽しめる文化」を継承でき、ユニバーサル映画館への昇華も可能となるのではないか。

【カフェのある映画館】

一方、映画館としての営業を安定させるためには、映画鑑賞者数を増やす、あるいは維持することが必須である。このためには、まちキネにこれまでは無かった機能（魅力）を追加する必要がある。市民からはその具体的なアイデアが幾つも寄せられている。

例えば、映画を楽しむ前後に利用するカフェが欲しいとの声がある。シネコン等にありがちなコンセッション・メニューではなく、より本格的なカフェであれば利用者の滞留時間は延びるのではないか。カフェ・喫茶店の少ない鶴岡市街地では映画鑑賞無しのカフェのみの利用者も出てくるだろうし、観光客の立ち寄りも生まれる可能性が高い。立ち寄りがあればこそ、そこに新たな映画需要が生まれる可能性がある。食文化創造都市であればこそ、とち餅や笹巻きなどを地域特有スイーツとして売り込めるだろう。幸いにも山王商店街には本格的なコーヒー焙煎店が複数あるので、それらとの連携も大いに可能であろう。

【産直で食文化を感じとる】

野菜・果物等の産地直売（産直）の店舗がまちキネ内にあると良いとの意見もある。産直には市民も観光客も、その地域特有の食文化を感じとれる。新庄市の旧東北農業試験場（旧蚕糸試験場）跡地を利用した産直では平日午前にも客が多いと聞く。そうだとすると、産直は映画鑑賞者の閑散時の集客になるだろう。鶴岡駅前等で産直を展開するJAの協力は得られないだろうか。市民主導で回を重ねてきた食文化映画祭と産直のコラボも、双方にとってメリットがあるのではないか。それら地場産食材を利用したレストランがまちキネにあるのなら、映画と食の更なるコラボレーションが展開されるのではないか。

【若者の定着とまちづくりへの参画】

若者によるチャレンジ・ショップ（期間限定）のスペースを設けるというアイデアもある。山王商店街で、若者による新規店舗のオープンが複数あったと聞く。この動きを推進するならば、若者の起業を支援する工夫が必要であろう。また、YouTube等の動画配信サービスが活況を呈することを背景に、動画（映画）制作や各種芸術文化活動を生業としたいと考える中高生・若者も少なくない。彼らの作品発表に上映室が、また後述の貸しオフィススベ

ースが作品制作に使えらるだろう。そのような起業支援は、若者の県外流出を防ぎ地元定着を推し進めるだろう。当の中高生に、旧まちキネ利活用と地元定着、更にはまちキネを利活用した中心市街地活性化を議論してもらうことでまちづくりに主体的に参画してもらえらるだろう。

【読書のまちを推進する映画館】

鶴岡市立図書館の建物老朽化を耳にするし、また、訪れればその手狭さを感じる。この図書館分室のようなスペースをまちキネに設けるはいかかだろうか。公開される映画に関わる書籍を配置し、その閲覧がカフェや上映室でできるようにする。さらに図書館本館に関連書籍の配置スペースを設ければ、書籍貸し出し数の増加をも生みだすのではないか。映画と書籍（読書）は決して対立せず、その融合により新たなまちキネ文化を展開する相乗効果を見せるだろう。

【軽運動が楽しめる屋内スペース】

社協はエントランス・ホールを介護・フレイル予防のために使う計画があると聞いた。一方、市民からは子供も、学生も、働き盛り世代も天候に関係なく安心・安全に軽運動を楽しめる屋内スペースが欲しいとの要望が多い。子育て世代にとってはキッズドームソライのイメージだろう。

また、C棟（スクリーン3、スクリーン4、エントランス・ホール）のみの床面積では実現が難しい利活用アイデアも市民からいただいている。例えば、鶴岡の食文化が楽しめるレストランである。まちなかの文化拠点としての貸しオフィススペース、コワーキングスペース、カルチャースクールへの貸スペースといった部屋貸し事業も、まちキネの複合機能としてアイデアが寄せられている。この事業は映画館運営の金銭的サポートになり得る。

さらに市民としては、老人福祉センターの建物の老朽化や、災害頻発時代におけるボランティアセンターの機能充実もたいへん気になるところである。

【隣接地との連携】

松尾芭蕉ゆかりの長山邸跡を整備・利活用するプランをNPOが中心となり計画している。俳句のファンは今や世界中に拡大しており、芭蕉の「奥の細道」は国民の誰もが知るところである。長山邸跡が整備されれば一大文化拠点として機能するだろうし、世界から観光客を集めるとなると交流拠点として機能するだろう。隣接するまちキネは観光客の目に留まり、立ち寄り・利用が生じるだろう。隣接地における利活用プロジェクトと連携することにより、さらに魅力的な文化拠点・交流拠点が創造されるだろう。関係各位との連携を進めるべきである。

映画機能付交流スペース（旧「鶴岡まちなかキネマ」シネマ3・4区域）

第3回 利活用検討会

日時：令和3年1月12日（火）午後5時～

会場：市役所別棟2号館21～23号会議室

【次第】

1 開会

2 挨拶

3 報告

第2回利活用検討会の意見概要【資料1】

改修計画図（R3.1.12案）【資料2】

今後のスケジュール【資料3】

4 協議

鶴岡市との連携事業を含めた利活用検討について【資料4】

クラウドファンディングの活用【資料5】

5 その他

6 閉会

映画機能付交流スペース 第3回 利活用検討会 参加者名簿
(敬称略)

所属	職名	氏名
同志社大学経済学部	教授	太下 義之
(独行) 国立美術館理事、鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、鶴岡市文化芸術推進基本計画策定委員、酒井家庄内入部 400 年記念事業アドバイザー		【座長】
まちキネの存続と再生を願う会	代表	菊池 俊一
鶴岡市社会福祉協議会	常務理事	伊藤 周一
荘内銀行営業推進部	地方創生室長	奥山 弥寿之
鶴岡信用金庫総合企画部	地域創生課長	新橋 芳武
山王まちづくり株式会社	代表取締役	三浦 新
	取締役	本間 葉子
鶴岡山王商店街振興組合	理事長	阿部 等
	理事	北風 秀明

(事務局)	職名	氏名
鶴岡市企画部	企画部長	阿部 真一
鶴岡市企画部政策企画課	企画部次長兼政策企画課長	佐藤 豊
鶴岡市健康福祉部	地域包括ケア推進室長	佐藤 清一
鶴岡市商工観光部商工課	商工企画主幹	坂口 礼奈
鶴岡市建設部都市計画課	城下のまちづくり推進主幹	鈴木 英昭
鶴岡市教育委員会社会教育課	専門員	渡邊 雅之
鶴岡市企画部政策企画課	主査	奥山 真裕
鶴岡市企画部政策企画課	専門員	佐藤 紘司

映画機能付交流スペース第2回活用検討会 意見概要

資料1

映画上映

- ▶ 歩合興行(興行収入に応じた支払い)かフラット興行(固定額の支払い)が基本
- ▶ リクエスト上映は採算性確保が難しい。(山形市の金曜上映会は成功している。鶴岡市に提案あり)
- ▶ デジタルアーカイブの企画上映案として「旧町名を語る会(参加費500円)」等
- ▶ 市民所有のフィルムなどをデジタル化し、市のPR等に利用
- ▶ 福祉系の方々が学習できる企画上映
- ▶ 鶴岡出身の映画監督の作品、舞台となっている映画をアーカイブし上映

映画館運営

- ▶ 1万7000人/年が想定(損益分岐(平日50人、土日各90人))
- ▶ デジタル映画機の更新(20年が経過)
- ▶ 映画チケットに山王商店街の飲食店メニューをセット販売、観客参加上映とケータリングの組合せ
- ▶ 山王バザールとのコラボ、コンサート、小劇場、eスポーツイベントでの利用
- ▶ 商店街連携を銀座通り、駅前通りにも広げ、鶴岡市内どこでも特典がある仕組み
- ▶ 映画上映と貸館事業をうまく回し売り上げを見込む
- ▶ 見たい作品がなくても見に来る、映画を見なくても支える・応援する仕組み
- ▶ 来場者のニーズを継続的にリサーチ
- ▶ コミュニティシアターの失敗事例、クラウドファンディングの頓挫ケースを研究

エントランスホールの活用

- ▶ 社会福祉協議会では令和3年度に検討予定
- ▶ 土日以外のエントランスホールの利用は運営主体と要検討
- ▶ 通所サービス利用時に映画上映するシルバー映画館
- ▶ 介護予防室でフィジカルメニューとアーカイブを活用した回想法の事業を組み合わせた高齢者のコミュニケーションスペースとして活用

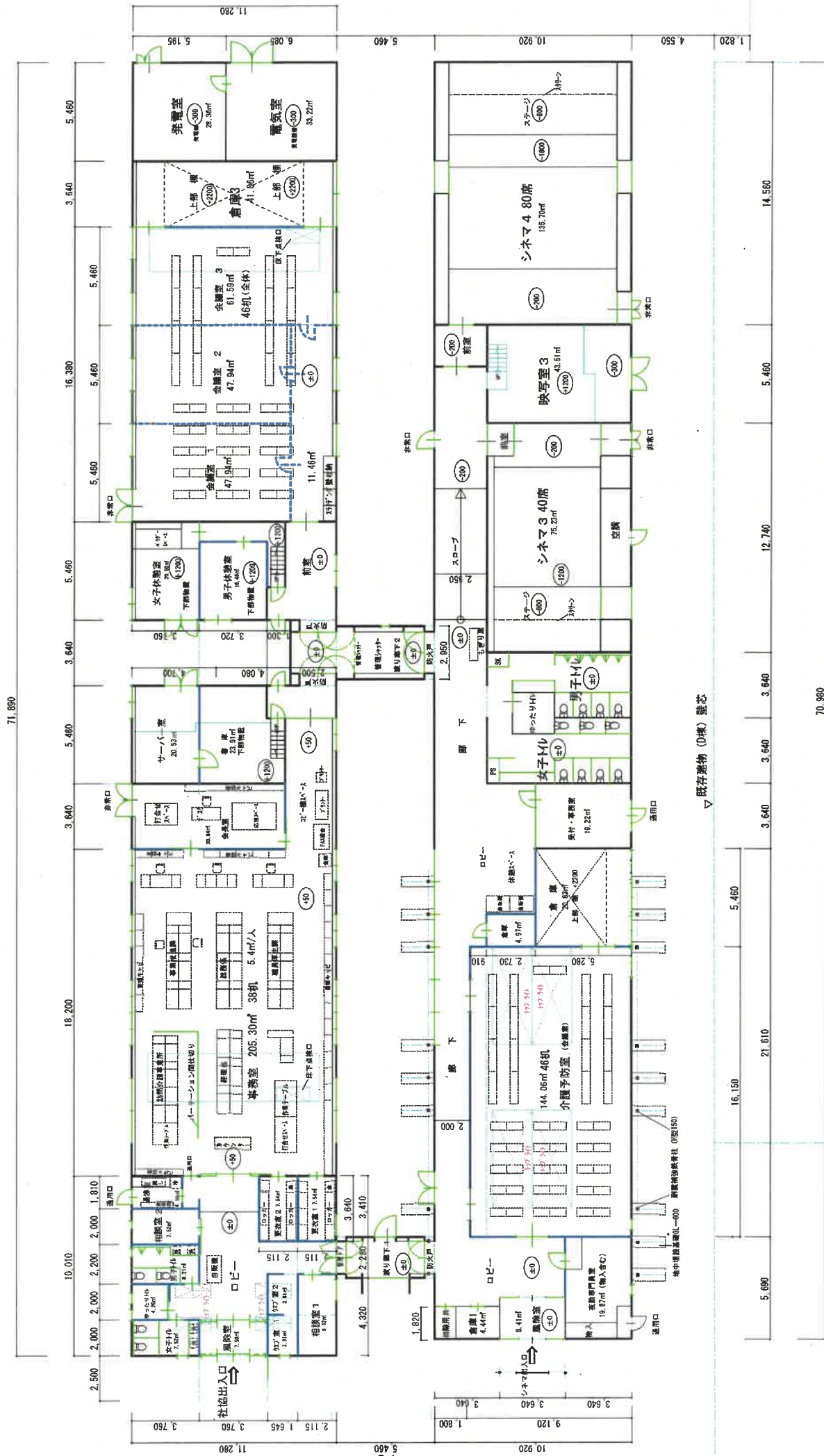
教育・福祉との連携

- ▶ 純粋な民間事業では成り立たない。高齢者福祉、教育連携が映画館運営の成否を握っている。連携事業に市がどれだけ新しい形で支援できるか要検討
- ▶ 教育、福祉事業連携は鶴岡市だけでなく庄内地方に広げてみる
- ▶ 「アミーゴあつぎ」(厚木市から高齢者保養施設として認定され65歳以上に保養施設の助成券を配布し、映画館鑑賞料と年会費割引をし集客につなげた)仕組みを検討
- ▶ メディアアリテラシーのため映画・映像に子供の時からふれて学べる教育が重要
- ▶ 小中学校教育での利用について障壁があるならば前向きな検討が必要。例えば移動のリスク等は市がスクールバスでアクセスを保證する、映画館を文教施設として位置付けるなど

市民との関わり

- ▶ ボランティア活動や金銭的支援などまちキネの再生と中心市街地活性化へ参画したい市民の巻き込み
- ▶ 市民と一緒に運営する映画館として会員組織、サポーターズクラブのような、市民が共感し支える仕組みづくり
- ▶ 映画館への市民ニーズに応えてもらえる、市民の声、アイデアを運営に反映した仕組みづくり
- ▶ 「復刊ドットコム」サイトのようなWebを活用する市民参加型プログラムが共感につながる
- ▶ クラウドファンディングで取組を周知し共感を獲得する可能性がある

改修計画平面図 (R3.1.12案)



今後のスケジュール

期日	予定
R3.1.12 (火)	映画機能付交流スペース第3回利活用検討会
R3.1.15 (金)	地方創生推進交付金 本申請
R3.1月中下旬	利活用検討会のまとめをマスコミ等に公表 <ul style="list-style-type: none"> ・方 法：記者会見 ・同席者：山王まちづくり(株)、鶴岡市社会福祉協議会、市(事務局) ・内 容：3回の利活用検討会の協議内容とそのまとめ
R3.2～3月	映画機能付交流スペース整備・運営に向けた諸条件の協議 <ul style="list-style-type: none"> ①運営協議会の委員構成、事業計画、協議会規約等の企画調整 ②令和3年度事業の企画調整 ③賃貸借条件 ④経営計画 ⑤クラウドファンディング
R3.2～3 下旬	山王まちづくり(株)株主総会、鶴岡市社会福祉協議会評議員会、鶴岡市議会(令和3年度予算)において意思決定
R3.3月下旬	地方創生推進交付金 内示
以後、予定	
R3.4月～	プロジェクトの実施 運営協議会組成、機器研修、有識者招聘、テスト事業・市場調査等
R3.5～12月頃	旧まちキネ設計期間
R4.4～10月頃	旧まちキネ改修工事
R4.11月頃	旧まちキネへの社協事務局移転、新業務開始 新まちキネオープン

鶴岡市との連携事業も含めた利活用検討

資料4-1

シネマ3・4での企画上映 + 未利用日のエントランスホールの活用

- 親子・子供会・敬老会・福祉介護等を対象に、映画機能活用プラスアルファのニーズを把握し、領域ごと企画上映する。
- 小～高校との連携、図書館・中央公民館等の教育映画、視聴覚教材等を活用する施設としての位置づけも検討する。

概要	対象	シネマ3・4	エントランスホール	オプション	実施・連携主体(想定含む)
例	幼児・児童(子供会)	幼児鑑賞用アニメ上映	だいがや楽校(趣味・特技・遊び・学び・作品を屋台で展開)		NPO法人、幼稚園・保育園等関係の任意団体
	育児中の親	託児付き映画鑑賞会	高齢者との多世代交流(昭和の遊び体験)		公的機関、子育てサークル等
	近隣町内会等の高齢者	高齢者向け映画上映	通所サービスマ(8人以上の住民団体による介護予防事業)	商店街・福祉施設 商品販売	3人以上の任意団体(担い手養成研修修了者3人以上)
	障害者とその支援者、市民	バリアフリー映画・障害者アート映像等上映	障害者アート作品展、障害者も参加できる体験講座、ワークショップ		市、障害者支援センター、民間支援団体

みんなで
映画
鑑賞会

- 特定のテーマに特化した映画を集め1週間程度、上映と関連イベントを実施する映画祭
- 「食の映画祭」の枠組みを活かした企画

概要	対象	シネマ3・4	エントランスホール	オプション	実施・連携主体(想定含む)
例	おいしい鶴岡 食の映画祭 (1週間)	食をテーマとした映画上映	トークショー、映画に関連する食提供、食に関する取組みの発表、交流会等	市内飲食店とイベントタイアップ	鶴岡食文化創造都市推進協議会
		福祉をテーマとした映画上映	エントランスホール (食の映画祭の枠組みで、福祉推進に関わる取組みを実施)	オプション	実施・連携主体(想定含む)

映画
イベント

- ユネスコ創造都市連携事業
 - 鶴岡市の食文化、山形市の映像文化を融合させた連携事業を企画し、その拠点の1つとして活用
 - ドキュメンタリー映画祭×食文化映画祭＝山形県ユネスコ創造都市映画祭(仮称)
 - 両市を会場とする連携イベントの実施、クリエイティブツリーズム造成など
- 庄内藩酒井家入部400年記念事業(映画の藩校づくり)
 - 400年記念事業の「令和の藩校づくり」とタイアップし「映画・映像の藩校づくり」を目指す事業を展開
 - デジタルSHONAIアーカイブのPR上映、昔のまちづくり映像上映、高校生等から募ったアイデア実施
 - メディアアトリテラシー、キャリア教育などにも活用

重要
施策
での
活用

鶴岡市との連携事業も含めた利活用検討

資料4-2

市民の共感を得て、市民が支える映画機能付き交流スペースの方策

課題

- 収益基盤の確保
会員制度、会員組織など
- テーマ設定
例：街に出かけ多様な映画と出会う場所
- 多様なターゲットの設定
- 上映映画の多様性の確保
- スペースの確保
- スタッフの確保
市民、自主上映団体
ボランティア(情報発信含む)

ニーズ

- 自主事業
通常上映・企画上映など映画ファン
- 連携事業
→ 年間計画利用者
総合学習(教育的使命の実現)、
社会教育事業など
→ 定期利用者
福祉施設、地域団体など

付加機能

- 芸術の上演
演劇、音楽、美術、落語など
- 常設
レンタルスペースなど
- 定期
産直、マルシェなど

- (参考)山王商店街関連イベント
- ・ 1月 年始初詣イベント、山王新酒まつり
 - ・ 4月 海坂の桜祭り
 - ・ 5月 天神祭り
 - ・ 5～10月 ナイトバザール
 - ・ 7月 商店街連携夏まつり
 - ・ 8月 山王ただだちや豆祭り、送り盆きつね流し踊り、鶴岡おいやさ祭り
 - ・ 8～11月 山王の杜・蚤の市
 - ・ 11月 デイバザール

▶▶▶ ボランティアの養成

▶▶▶ クラウドファンディングの実施

購入型クラウドファンディング 「山形サポート」について

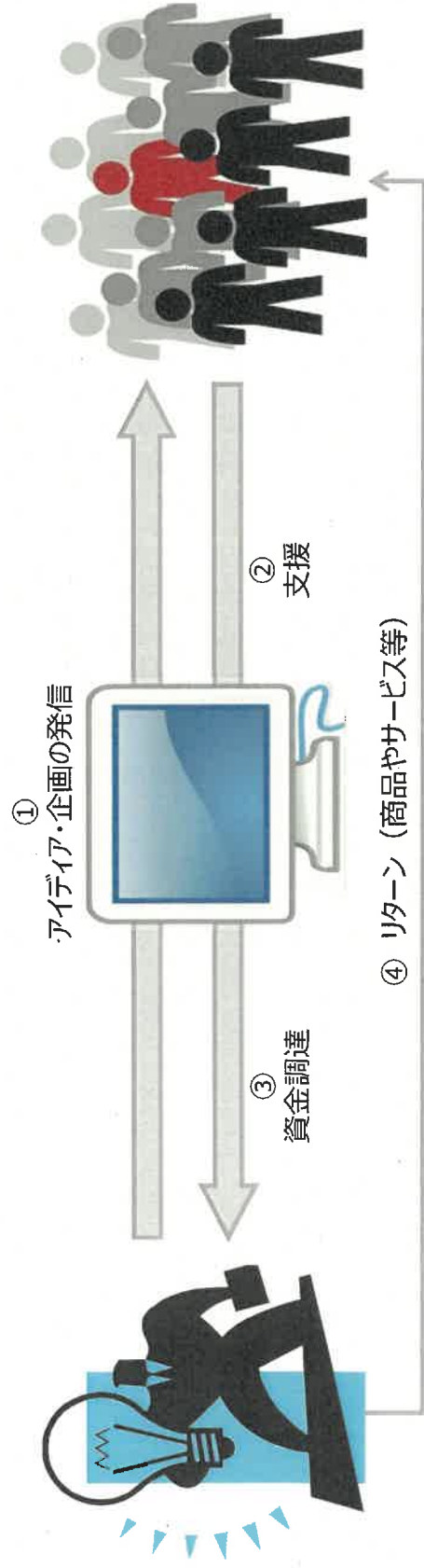
令和3年1月
山形サポート運営事務局
(荘内銀行地方創生室)

クラウドファンディングとは？

Crowd(群衆) + Funding (資金調達)

- クラウドファンディングには寄付型・購入型・出資型・融資型と様々な種類がありますが、一般的には寄付型や購入型が広く認知されています。
- 上記のように様々な種類のクラウドファンディングがありますが、共通するのは企画（プロジェクト）に対して、インターネットを活用したプラットフォームを通じて不特定多数へ呼びかけを行い、共感した人（支援者）から広く資金を調達するという概念です。
- 購入型クラウドファンディングにおいては、資金調達が成功した場合に支援者に対し、当初に約束した商品やサービス、権利の提供（リターン）を行います。

※購入型クラウドファンディングの法的性格は、民法の売買契約にあたります



クラウドファンディング支援者の特徴

<寄付>	<購入>	<応援>
<p>ストーリーへの共感</p> <ul style="list-style-type: none">プロジェクトのコンセプトに共感プロジェクト実行者や団体などのパーソナリティへの共感	<p>リターンに魅力を感じる</p> <ul style="list-style-type: none">ここでしか手に入らない他の人より早く手に入れることができる	<p>コミュニティに対する参加・貢献</p> <ul style="list-style-type: none">このコミュニティに参加したい仲間になりたい自分の支援がプロジェクトの実現に寄与するという実感

ふるさと納税はリターンが目的であることが多いのに対して、クラウドファンディングは共感や応援が目的となる場合が多い



クラウドファンディング活用事例（「映画」で検索したもものから抜粋）

映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

食べることは生きること。山形県鶴岡市の“食”を考える映画祭

山形県鶴岡市 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

361,000円 目標金額 300,000円

山サポ 鶴岡市



映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

消える街の映画館、西大陸海岸唯一の映画館とこれからも日常を

山形県鶴岡市 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

4,325,000円 目標金額 3,000,000円

秋市



映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

山形県米沢の誇る重創映画 伴淳三郎の映画祭観覧を継続したい！

山形県米沢市 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

365,000円 目標金額 300,000円

山サポ 米沢市



映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

「6年生が作った映画を地域の映画館で上映したい！」

山形県米沢市 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

271,000円 目標金額 200,000円

大阪市



映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

計算機がいち者と鑑賞者が一緒に楽しめる映画祭をつくりたい！！

山形県米沢市 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

175,000円 目標金額 150,000円

東京都



映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

街の小さな映画館をデジタル化して佐賀の映画文化を守りたい

山形県米沢市 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭 映画祭

1,229,000円 目標金額 1,000,000円

佐賀市



「山形サポート」とは

オール山形方式のクラウドファンディング専用サイト



クラウドファンディングを検討したい。

事業のお申込み

ご相談・お問い合わせ

運営主体 山形新聞

庄内銀行

サポート

山形銀行

きらやか銀行

山形県

Ready for

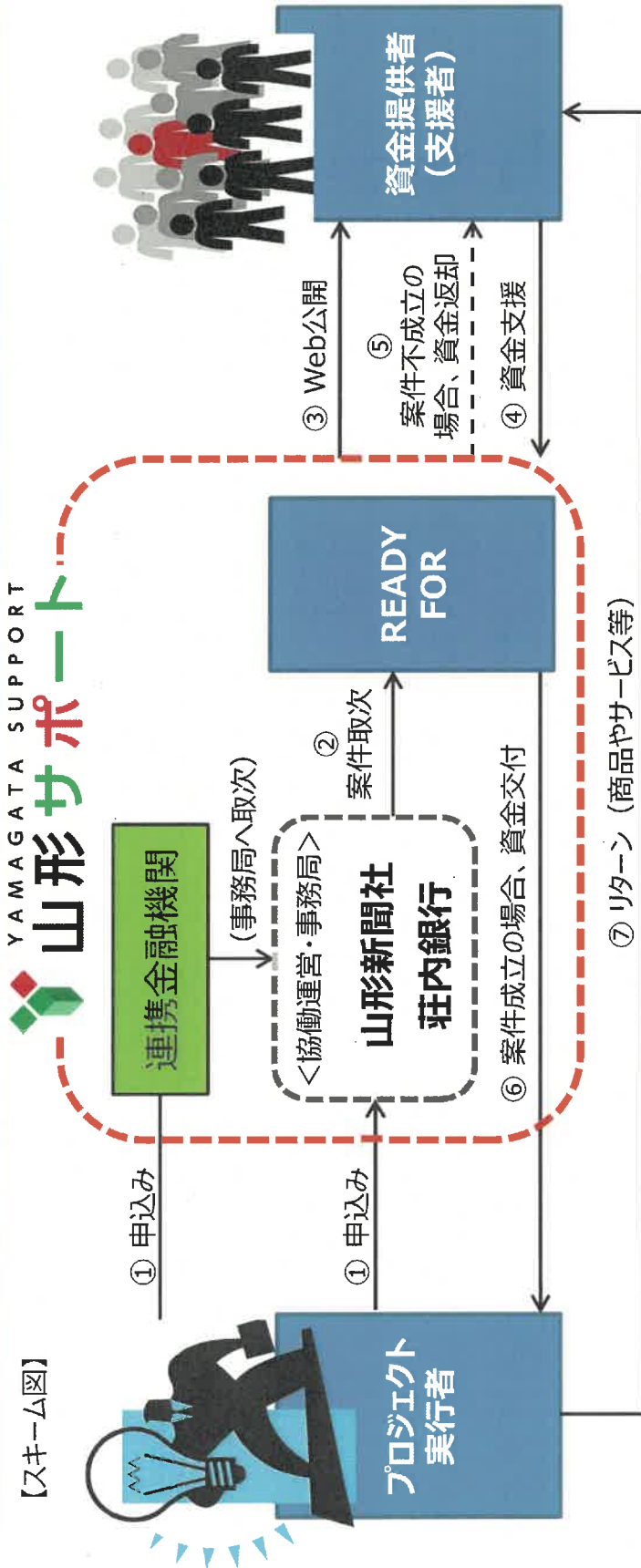


- 庄内銀行は2016年にクラウドファンディング事業者のパイオニアであるREADYFOR株式会社（※）と業務提携を開始。その後、山形県や山形新聞社、県内金融機関と連携し、県民と全国の支援者の架け橋（プラットフォーム）となる「山形サポート」の運営を2017年1月より開始しました。
- 運営開始から約4年で約1億32百万円を調達。達成した案件は71件、達成率91.0%（2021年1月7日時点）に上り、熱意ある山形県民の様々な取組みを支援しています。
- （※）日本国内には40社以上のクラウドファンディングサービス会社がある中で、国内初かつ国内最大級のクラウドファンディングサービスを提供している会社です。プロジェクトの実行者も中学生から80歳以上の方と幅広い世代から活用されています。

銀行・新聞社・山形県が連携するプラットフォームをつくることによって
支援者にとって安心が担保されるとともに認知が広がる仕組みが構築された

「山形サポート」のスキーム

【スキーム図】



- ① プロジェクト実行者が当行や山形新聞社等に対して、「山形サポート」の利用申込みを行う
- ② 「山形サポート」事務局による採択審査を経てREADYFORにプロジェクトを取次
- ③ 同社内での採択審査を経て、プロジェクトのWeb公開開始 **(同社HP、山形サポートHPで同時公開)**
 ※ Web公開までの手続きはREADYFOR社キレター (案件専任担当者) がサポートを行います
 (キレターサポートはフルサポートプランを選択した場合のみとなります)
 また、山形サポートHPでのプロジェクト公開とほぼ同時に**山形新聞の紙面でも当該プロジェクトを紹介**
- ④ 当該プロジェクトに賛同した支援者は、Web募集期間内で「山形サポート」を通じて支援
- ⑤ 案件不成立の場合は、調達した資金は支援者へ返却されます
- ⑥ 案件成立の場合、プロジェクト実行者に利用手数料を差し引いた資金が交付される
- ⑦ プロジェクト実行者は、当初に決めたリターン (商品やサービス) を支援者に交付

「山形サポート」の特徴

1. キュレーターによるサポート体制（※フルサポートプランをご利用の場合）

※3種類のプランから選べますが、キュレーターのサポートはフルサポートプランの場合のみとなります

- 各プロジェクトに担当のキュレーターが付き、プロジェクトの公開準備から公開後の広報活動まで丁寧なサポートを実施します。
- 多くの共感と支援を集めるために効果的な文章構成や写真の選び方など、キュレーターが細かくアドバイスを行います。
- プロジェクト実行者が効果的な広報活動を行えるように、ページ閲覧や支援率の分析、アクションプランの作成などもサポートします。

2. ALL of NOTHING 制度

- 目標金額と募集期間を決め、期間中に目標金額を達成できた場合のみプロジェクト成立となり、資金を受け取ることができます。
- ※ 案件が成約した場合に、プロジェクト達成金額に所定の手数料率を掛けた額を手数料として頂戴します
- プロジェクトが不成立となった場合、手数料は発生しません。

3. 山形新聞の記事に取り上げられることで県内での周知が図られる

- 「山形サポート」ではインターネットを活用したオンラインでのプロジェクト公開の他、新聞紙面に取り上げられることでオンラインからも多くの人に訴求していくことが可能となり、それが高い成功率を生んでいる理由の一つとなっています。

クラウドファンディング成功のポイント

プロジェクト案件が全国に公開されたからといって
資金が集まるわけではない！！

- 目的を明確にする
 - ⇒ 資金調達・活動P R・テストマーケティング
- 成功事例から自分たちの活動に近いものを探して研究する
 - ⇒ 成功事例も失敗事例もHPから確認できる
- どうすれば共感を得られるか・応援したくなるのかを考える
 - ⇒ 共感や応援なくして資金は集まらない。加えて共感した「モノ・コト」は誰かに伝えたいくなる
- 魅力あるリターンを考える
 - ⇒ お金をかければ良いというものでもない。支援したくなるためのアイデアが勝負
- SNS等による情報の拡散を図る
 - ⇒ プロジェクトに関わる人・知人・友人などを通じて幅広い共感の連鎖を図っていく
- プロジェクト実行者の熱意や感謝の気持ちをしっかりと伝える
 - ⇒ プロジェクト情報のアップデートを頻繁に行うことと応援に対するお礼をしっかりと伝える

【ご参考】ガバメント・クラウドファンディング

ふるさと納税の機能とクラウドファンディングの機能を合体（寄付型）

応援したい自治体に寄附ができる

生まれ故郷でなくとも、好きな自治体に寄附できるのがふるさと納税。寄附先の数や金額、回数に上限はなく、ご自身の控除上限額内であれば、**実質2,000円**の負担で複数の地域を応援できる。

ふるさと納税

+

GCF

- ・所得税や住民税の控除
- ・返礼品が手元に届く
- ・共感もあるがリターンや節税が目的となる場合も多い

- ・資金使途が明確で共感が生まれやすい（リターンより共感）
- ・**All or Nothing**でなく **All in**の取り組み（仮に目標額に達しなかったとしても集まった金額のすべてを受け取ることができる）

山形市 応援コメント

京都市 応援コメント

【ご参考】ガバメントクラウドファンディングのスキーム

【ポイント：山形サポートとふるさとチョイスの違い】

- 資金調達スキームにおいては双方に大きな違いはありません。
- 山形サポートは、インターネット（デジタル）と山形新聞（アナログ）の複合的な情報発信によって、情報感応度を高めることに成功しており、その結果として9割近い案件成功率となっています。一方、ふるさとチョイスはインターネットのみによる単一的な情報発信に留ることから、広く訴求しにくいという点があります。

